

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 2 区分

【発行日】平成 29 年 7 月 27 日 (2017.7.27)

【公開番号】特開 2016-35957 (P2016-35957A)

【公開日】平成 28 年 3 月 17 日 (2016.3.17)

【年通号数】公開・登録公報 2016-016

【出願番号】特願 2014-157753 (P2014-157753)

【国際特許分類】

H 0 1 L 21/66 (2006.01)

G 0 1 R 31/28 (2006.01)

【F I】

H 0 1 L 21/66 B

G 0 1 R 31/28 H

G 0 1 R 31/28 Y

【手続補正書】

【提出日】平成 29 年 6 月 15 日 (2017.6.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 8】

また、閾値  $TH_N$  は、マージンを考慮して判定の信頼性を高めるため、 $S_0 \times [n - (N - 1)] / n$  と  $S_0 \times (n - N) / n$  との中間値付近に設定することがより好ましい。つまり、F A I L 信号を出力する D U T 1 0 の個数がゼロから 1 つずつ増加する場合の合成応答信号  $S_0$ 、 $S_1$ 、 $S_2$ 、 $\dots$ 、 $S_n$  としたとき、 $S_0$  と  $S_1$  との中間値付近、 $S_1$  と  $S_2$  との中間値付近、 $\dots$ 、 $S_{n-1}$  と  $S_n$  との中間値付近に、閾値  $TH_N$  を設定することが好ましい。例えば、

$TH_N = \{ \{ S_0 \times [n - (N - 1)] / n \} + \{ S_0 \times (n - N) / n \} \} \times 1 / 2$   
とすることが好ましい。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 0】

S T E P 1 では、1 回目の判定で用いる閾値  $TH_1$  を設定する。この閾値  $TH_1$  は、閾値設定部 1 2 3 によって設定される。上記式 (1) より、 $n$  個の D U T 1 0 の全てが合格である場合の合成応答信号の出力レベル  $S_0$  に対し、1 回目の判定で設定される閾値  $TH_1$  は、次の関係を満たすことが好ましい。

$S_0 \times n / n \quad TH_1 > S_0 \times (n - 1) / n$

また、マージンを考慮して、

$TH_1 = [ S_0 \times n / n + S_0 \times (n - 1) / n ] \times 1 / 2$

とすることがより好ましい。